

旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会 第1回、第2回、第3回資料

平成27年 11月26日

福岡市

旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会の進め方

検討委員会の内容	検討委員会のスケジュール			
0. はじめに (1) 旧大名小学校跡地について (2) 旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会の進め方	ステップ1 先進事例の調査等			
1. 旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項 (1) 上位計画等 (2) 周辺地区の状況 (3) 旧大名小学校跡地周辺の状況 (4) 学校再編に際して地域と定めた整備事項 (5) 旧大名小学校校舎の状況 (6) 旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項				
2. まちづくりの方向性の検討 (1) 構想検討にあたっての基本的な視点 (2) 天神・大名地区のまちづくりの方向性 (3) 旧大名小学校跡地で取り組むべきまちづくりの方向性		ステップ2		
3. 跡地活用に向けた土地利用の考え方の検討 旧大名小学校跡地で取り組むべきまちづくりの方向性をふまえ、跡地で創出する空間、土地利用(ゾーニング、空間づくり)を検討する			ステップ3	パブリックコメント
4. 跡地活用に向けた取り組みの検討 跡地活用に向け、今後取り組むべき事項について検討する				ステップ4

旧大名小学校跡地まちづくり構想(平成27年度早期に作成)

(1) 上位計画等

① 第9次福岡市基本計画(H24.12改定)

施策8-1 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

施策7-4 多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくり

② 福岡市都市計画マスタープラン都心部編(H26.5改定)

【都心部のまちづくりの方向性】

アジアの活力を福岡に取り込み、九州西日本の各都市へ波及させる

【土地利用の基本的な方針(天神及び天神周辺部)】

商業・業務機能の高度化を進め、国際的な魅力を高める。公開空地の活用などによる更なる賑わいの創出、出会いと交流を促す創造的な場づくり。

③ グローバル創業都市・福岡のビジョン素案(H26.9)

世界で活躍する企業やグローバル人材を引きつけるビジネス環境を実現する。

【クリエイティブ街区の形成】

建築物の更新期などを捉え、多様な企業や人材が集まり、出会いと交流を促す魅力的な都市空間を備え、新たなビジネスや価値を生み出す創造的な場の創出に取り組む。

(参考) 福岡市都市計画マスタープラン都心部編 めざすべき都市構造

- ① 都心部の中核部である天神・渡辺通、博多駅周辺の機能強化
- ② 海に開かれたアジアへの玄関口となる博多ふ頭・中央ふ頭の機能強化
- ③ 都心主軸を骨格とし、各地区が一体となった都心部の機能強化
- ④ 核や拠点を結ぶ都心部回遊軸の強化
- ⑤ 個性を生かした拠点の機能強化と、住み続けられる都心部づくり

■ 都心部の将来の都市構造



(2) 周辺地区の状況

新舞鶴小・中学校

- ・大名小、舞鶴小、簀子小、舞鶴中の3小学校1中学校を統合再編し、小中連携校として、旧舞鶴小校地でH26.4に開校。
- ・隣接街区の検察庁や少年文会館の移転等に伴い、運動場等を整備する予定。



舞鶴地区

- ・居住・商業・業務が複合するエリア。
- ・H26.4の新舞鶴小中学校の開校に伴い、都心居住の受け皿として、注目されている。

大濠公園・舞鶴公園地区

- ・福岡を代表する約80haもの貴重な緑地空間であり、国史跡鴻臚館跡・福岡城跡にも指定された歴史を感じる場所である。また、美術館・能楽堂など芸術文化施設も有している。

- ◆セントラルパーク構想
大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として歴史、芸術文化、観光の発信拠点となる公園づくりを目指す。(H26.6策定)



全景



多くの来訪者を集める福岡城さくらまつり

明治通り

- ・天神地区と大濠公園・舞鶴公園地区をつなぐ幹線道路。天神地区と外のエリアをつなぐメインストリートの一つであり、福岡を代表するビルが集積している。
- ・特に天神1.2丁目では、地権者等で構成される天神明治通り街づくり協議会が設立され、ビルの更新期を捉えた計画的なまちづくりに取り組んでいる。

◆天神明治通り街づくり協議会の取り組み

- ・区 域 明治通り沿道17ha
- ・構 成 地権者など36者
- ・取組み ビルの老朽化などにより地区全体が更新期を迎える中、「アジアで最も創造的なビジネス街」をめざし、円滑な機能更新、機能強化と魅力づくりに資する計画的なまちづくりに取り組んでいる。



将来イメージ

天神地区

- ・広域交通の拠点となる天神駅や大規模な商業施設が立地し、九州屈指の商業集積エリアとして、国内外の観光客も多く訪れる。



渡辺通り(商業施設の集積)



賑わう天神地下街

警固公園

- ・天神地区の貴重なオープンスペース約1.1ha)
- ・都市の憩いと賑わいを創出する空間として、H25.12に再整備を実施



多目的のオープンスペースを備えた公園としてリニューアル

大名地区

- ・居住・商業・業務が複合するエリア
- ・ファッションや飲食をはじめとする小規模な店舗やオフィスが立地するなど若者や女性などが活躍するエリア。
- ・個性的なビルや店舗、オフィスなどが多くみられる。



個性的なビル



コナを活用したショップ



猫カフェ

天神西通り

- ・近年ファストファッションなどの商業施設が連続して立地し、賑わいを創出



天神西通り

きらめき通り

- ・沿道の民間開発と合わせ、地上地下の魅力ある歩行者ネットワークが整備されたことにより、新たな人の流れが創出され、天神地区有数の歩行者通行量となっている。



きらめき通り(地上部)



きらめき通り(地下部)

(3) 旧大名小学校跡地周辺の状況

明治通り沿道状況

天神地区と外の地区をつなぐメインストリートの一つであり、比較的大規模のビル等が集積し、風格のある街並みを形成している。



天神地区と外の地区を繋ぐメインストリートの一つであるが、公共施設などが多く、低層部の賑わいが乏しい

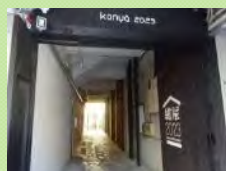
大名紺屋町通り



大名地区の特長的な活動

◆紺屋2023

クリエイターが入居し、アート・演劇などの活動も行われるリノベーションビル



◆エンジョイスペース大名

古民家を活用したレンタル多目的スペース



◆石井ビル

クリエイターやカフェなどが入居するリノベーションビル



えのき通り沿道状況

ヒューマンスケールで、歩いて楽しい界隈性のある街並みを形成している。



賑わいを創出する沿道の店舗



低層階を店舗とした小規模なビルが多い



休日の賑わい

賑わいを創出する取組

公園や公開空地などを活用した賑わい創出の取り組み

◆きらめき通り



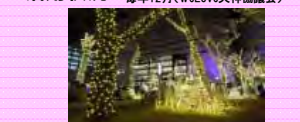
活用状況 FUKUOKA STREET PARTY
H26年11月(Welove天神協議会等)



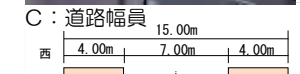
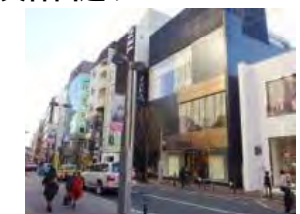
◆警固公園



活用状況 クリスマスイルミネーション
毎年12月(Welove天神協議会)



天神西通り



(4) 学校再編に際して地域と定めた整備事項

→学校再編にあたり旧大名小学校跡地の整備について大名校区と福岡市で定めた項目

※大名小学校跡地については、地域の意見もふまえ、今後福岡市において跡地利用計画を策定する。なお、地域より要望のあった整備項目については、当該跡地利用計画の中で順次実施する。

○現在の運動場と同等面積の広場を整備し、校区行事の場所や災害時の避難場所として利用する。



・旧大名小運動場（約3,000㎡）

○歴史ある大名小学校の面影を残すため、校舎の一部を保存し、災害時の避難場所や校区住民の交流の場としても利用できる多目的な空間を整備する。



・旧大名小南校舎(昭和4年建築)

○中央消防署大名出張所の配置換えにあわせ、大名公民館を移転改築する。



・明治通りに位置する
現大名公民館（3～4階部分）
※中央消防署大名出張所との複合施設

(5) 旧大名小学校校舎の状況

→旧大名小学校校舎の状況

◆南校舎の概要

配置図



概要

- ・建築年代：昭和4（1929）年
- ・構造：鉄筋コンクリート造, 3階建
- ・建築面積：約1,000㎡
- ・延床面積：約3,000㎡

文化財的評価

福岡市立大名小学校校舎に関する文化財的評価のための調査 (平成22年,23年実施：報告書抜粋)

○校舎の文化財的価値について

- ・昭和4年竣工の鉄筋コンクリート造で、福岡市では九大の諸建築に次ぐ4番目の古さを誇るなど、稀少価値は高い
- ・階段や廊下まわりの細部に残るアール・デコ様式は、昭和モダンの表情をみせる大名地区において、大名小学校の昭和初期のデザインが落ち着いた町の性格を際だたせている

○旧大名小活用の可能性（活用方針について）

- ・文化財としての稀少価値は高く保存が望まれるものであり、校舎は可能な限り現状維持が理想であるが、校舎活用の際しての用途変更は不可欠であるため、オリジナルと改造部分とを明確に区分するとともに、玄関を含めた階段周りについては、建築当初への復元が望ましい。
- ・校舎保存の観点のみではなく、災害時の避難場所としての役割等を考慮するなど、校舎の取扱いについては、慎重に検討する必要がある。

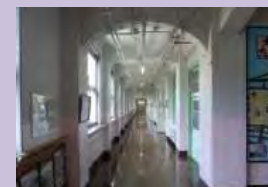
写真



正面全景(えのき通りより)



特徴的な中央階段



廊下



アールデコ調の意匠が残る
階段まわり

1. 旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項

(6)旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項

項目① 福岡市の成長の活力源となる都心部において
求められる新たな機能の導入

項目② 回遊性を強化する取り組み

項目③ 学校再編に際して地域と定めた整備事項

項目④ 昭和4年建築の南校舎の活用

・
・
・

2. まちづくりの方向性について

(参考) 第1回検討委員会資料

(1)構想検討にあたっての基本的な視点

視点① 大名地区や天神地区の拠点性の強化など地区
特性を生かした更なる魅力づくり
(創造的な場づくりなど)

※重要となるキーワード

- ・都心部における貴重な空間である「旧大名小学校跡地」
- ・都心部に求められる新たな機能の導入の可能性
- ・土地利用転換のタイミングを捉えたまちづくり など

視点② 新たに創出する土地利用と校舎等の有効活用が
一体性を有するように検討する

視点③ 民間活力の誘導を図り、官民連携でまちづくりに
取り組む

・
・
・

(1)これまでのご意見とまちづくりの取り組み(案)その1

旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項

項目①

福岡市の成長の活力源となる都心部において求められる新たな機能の導入

項目②

回遊性を強化する取り組み

項目③

学校再編に際して地域と定めた整備事項

項目④

昭和4年建築の南校舎の活用

構想検討にあたっての基本的な視点

視点①

大名地区や天神地区の拠点性の強化など地区特性を生かした更なる魅力づくり
(創造的な場づくりなど)

視点②

新たに創出する土地利用と校舎等の有効活用が一体性を有するように検討する

視点③

民間活力の誘導を図り、官民連携でまちづくりに取り組む

		第1回検討委員会でのご意見 (平成27年1月29日)	先進事例調査 (平成27年3月23日)	第2回検討委員会 現地調査 (平成27年4月24日)	まちづくりの取り組み (案)
新たな拠点が備えるべき性能など	1 歴史性	★文化財的な価値を保存して継承していくとともに、<u>地域が歩んできた歴史をこれからの世代に伝え、地域の歴史を継承する役割がある。</u> ・南校舎は、昭和4年建築の鉄筋コンクリート造の建物として、福岡市では貴重なものであり、文化的な価値も高く、ぜひとも残して欲しい。 ・老朽化した建物管理は大変。南校舎については、玄関周りを残し、公民館などを増築するなど、新しいものと一体的に整備してはどうか。 ・校舎を利用した公民館も考えられるのではないかな。 ・国際観光都市としてナンバーワンのロンドンでは、まちづくりの特徴である「歴史的構造物との共存」ということを戦略的にやっている。 ・大名小出身の著名な方の足跡を残していくことも必要ではないかな。 ・都市の資産づくりという視点から、今後、文化的価値もある校舎を活かし、これをどのようにブランド化するか、どのような空間をつくり込むかが課題。	(三菱一号館街区) ・三菱一号館の復元による歴史の重厚さや建物デザインや景観の美しさが印象的。 ・歴史的建物と新しいビルとのハイブリッド感(複合感) ・銀行室を喫茶店にうまく用途変更していた。旧大名小は中央階段周りがメインなので、階段両サイドの教室と合わせて何かできないかな。 (アーツ千代田3331) ・民設民営の仕組みは魅力的だが、文化財的見地からは、旧大名小校舎を改造も含め一括貸与となると、特徴的な意匠等が担保できないため、望ましくないのではないかな。 ・校舎の維持・管理費の負担が大きく工夫の必要がある ・三菱一号館の復元によるシンボル空間の再生等の取り組みは必要、又はできるならば必要。	※調査ポイント 校舎の現状(建物の現状、内観、外観など) 周辺状況(まちなみ)など	■校舎を活用し、地域のシンボリック空間を整備する ■まちや人の歴史を継承する場づくり
	2 居住性	★大名地区は住民のくらしがあるまちであり、<u>居住性が確保されなければならない。住み続けるまちであるため、子どもや高齢者の方々が楽しめる地域の遊び場やレクリエーション機能も兼ね備えていく必要がある。</u> ・大名地区は土日は多くの歩行者で賑わう一方、歩道上に並ぶ放置駐輪問題は深刻である。 ・子どもから高齢者まで安全安心に暮らせるまちとしての要素を備える必要がある。(広場など) ・都心部で利便性が良い場所にあるため公民館利用者は多い、活動する場があると利用する人、ニーズは多いのではないかな。 ・校舎を利用した公民館も考えられるのではないかな。 【再掲】 ・跡地の今後の位置づけ次第では風営法の規制が無くなり、生活環境の悪化を懸念している。 ・大名1,2丁目には十分な規模の広場の空間が不足している。	(アーツ千代田3331) ・大きくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができたり、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。	※調査ポイント 学校施設等の状況(運動場、公民館の立地など) 周辺状況(まちなみ)など	■現在の運動場と同等面積の広場の整備(避難場所、遊び場やレクリエーションの場所などで利用) ■多目的な空間の整備 ■公民館の移転改築 ■生活環境を悪化させない取り組み
	3 防災性	★突発的な災害時に果たすべき防災機能が跡地には必要。 ・福岡県西方沖地震の経験をふまえ、災害時の機能として避難場所は必要。 ・子どもから高齢者まで安全安心に暮らせるまちとしての要素を備える必要がある。(広場など)【再掲】	(三菱一号館街区) ・空間が細かく区画されすぎていた。	※調査ポイント 学校施設等の状況(運動場、公民館の立地など)など	

(1)これまでのご意見とまちづくりの取り組み(案)その2

旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項

項目①

福岡市の成長の活力源となる都心部において求められる新たな機能の導入

項目②

回遊性を強化する取り組み

項目③

学校再編に際して地域と定めた整備事項

項目④

昭和4年建築の南校舎の活用

構想検討にあたっての基本的な視点

視点①

大名地区や天神地区の拠点性の強化など地区特性を生かした更なる魅力づくり
(創造的な場づくりなど)

視点②

新たに創出する土地利用と校舎等の有効活用が一体性を有するように検討する

視点③

民間活力の誘導を図り、官民連携でまちづくりに取り組む

		第1回検討委員会でのご意見 (平成27年1月29日)	先進事例調査 (平成27年3月23日)	第2回検討委員会 現地調査 (平成27年4月24日)	まちづくりの取り組み (案)
新たな拠点が備えるべき性能など	4	★大名地区に色々な要素が混在していて、混在している良さとして人間の想像力を掻き立てるような地域の魅力を創り出している。これまでの経緯を踏まえ人づくりや活動づくりの場になってほしいということで、<u>創造性という言葉で代表されるような役割を強調しておく。</u> ・大名ならではのテーマ（歴史・若者の文化・食など）を情報発信できるような場にしてはどうか。 ・都心部で利便性が良い場所にあるため公民館利用者は多い、活動する場があると利用する人、ニーズは多いのではないかと。【再掲】 ・天神や大名はクリエイティブ（創造的）な人材が多く集まっている。跡地が、旧大名小などの歴史を踏まえながらも新しいものやイノベーションを生み出すための場になると、さらに創造的な人材の集積が起こるのではないかと。 ・新たな価値を生み出すには、新しい考え方やアイデアが必要であり、その推進力は人だと思ふ。クリエイティブな人たちが、やる気のある人たちが集まる場を創るべき。 ・天神や大名をクリエイティブな人たちの集積により、新しいイノベーションが生まれるエリアにしていくとともに、そのエリアの効果的な場所である旧大名小跡地を、新しいもの、イノベーションを生み出すためのアンカー(礎)としてはどうか。 ・海外都市でも、ターミナル駅と大きな公園との間にある街は個性的かつ、活性化している例があり、大名地区もその可能性を有しているのではないかと。	(三菱一号館街区) ・広場やカフェ・美術館など一体的に活用することで、都市型MICEのユニークベニューとしての活用が可能ではないか。世界の方々に福岡や大名の近代の歴史を知ってもらえる機会にもなるのでは。 (アーツ千代田3331) ・創造的な場づくりとして、使い方や空間整備の面で参考になると感じた。 ・区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできないならば必要である。 ・実験的なことができる場所を求めているアーティストや企業にとっては有機的な関係を育てやすい運営形態と思う。 ・アートの特化しているのでまとまりが良い。人がポイントと感ずるが、福岡で人材確保できるかが課題。	※調査ポイント 周辺状況（まちなみ、来街者）など	■新たな価値を生む人、モノ、コトが交流する場づくり ■クリエイティブ（創造的）な活動を促す空間整備 ■イノベーションを生み出すアンカーとなる人や活動を集積させる空間整備
跡地が備えるべき性能など	5	★大名・天神地区と一体感をもったまちとして捉え、歩行者が楽しんで歩けるような一体感のある地区間の回遊性を創り出すことが重要であり、地区内の東西、南北を繋ぐ回遊性に配慮した跡地利用とすべき。また、地区間の回遊性については、<u>デザインも含め人を引きつけるマグネットのような魅力が必要である。</u> ・天神から舞鶴・大濠公園地区をつなぐ東西の人の流れを受け止める場づくりや、明治通りとえのき通り間の人の流れを創出する、南北に跡地を通り抜ける動線づくりも必要ではないかと。 ・今は東西方向に校舎が建ち、南北に壁のように塞いでいるが、南北方向にどのように抜けていくのか検討する必要がある。 ・天神～大名のつながりは非常に重要であり、天神地区に集積する交通機関からわき出てくる人をどうやって受け止め、回遊させるかが重要。 ・回遊性に関して、人を惹きつけるようなマグネットのような魅力を跡地が持つべきであり、そのためにはデザインという要素も重要になる。 ・大名地区は土日は多くの歩行者で賑わう一方、歩道上に並ぶ放置駐輪問題は深刻である【再掲】 ・都市の資産づくりという視点から、今後、文化的価値もある校舎を活かし、これをどのようにブランド化するのか、どのような空間をつくり込むのが課題【再掲】 ・海外都市でも、ターミナル駅と大きな公園との間にある街は個性的かつ、活性化している例があり、大名地区もその可能性を有しているのではないかと【再掲】	(三菱一号館街区) ・街区内を通り抜ける歩行者動線の確保は回遊性の向上に寄与している。 ・一方、広場の存在を知らなければ、通り過ぎてしまう可能性もあると感じた。 広場のつくり込みへの評価 ・建物に囲われた広場の配置（囲われ感）により、居心地の良い空間が印象的と感じた。 ・ゆったり感はないが、配置の工夫などにより圧迫感を感じないデザインがされている。 ・広場に面した建物1階におけるカフェや店舗などによる憩いや賑わいの創出。 ・ベンチが多く休憩しやすいことや、噴水、季節の草花などを配するなど、憩いと潤いの空間を創出。 ・鳥の声、噴水や流れる水の音など五感に訴えるガーデンは素晴らしい。 (アーツ千代田3331) ・大きくくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができた、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。	※調査ポイント 人の流れをつくる歩行者動線、南北方向の通り抜け、歩道の状況 など	■東西の人の流れを受け止める回遊拠点づくり ■人を引きつける魅力的な施設・空間の整備 ■人の流れを創る回遊動線の確保（快適な歩行者動線、南北通り抜け通路の確保など） ■憩いや賑わいの創出

(1)これまでのご意見とまちづくりの取り組み(案)その3

旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項

項目①

福岡市の成長の活力源となる都心部において求められる新たな機能の導入

項目②

回遊性を強化する取り組み

項目③

学校再編に際して地域と定めた整備事項

項目④

昭和4年建築の南校舎の活用

構想検討にあたっての基本的な視点

視点①

大名地区や天神地区の拠点性の強化など地区特性を生かした更なる魅力づくり
(創造的な場づくりなど)

視点②

新たに創出する土地利用と校舎等の有効活用が一体性を有するように検討する

視点③

民間活力の誘導を図り、官民連携でまちづくりに取り組む

		第1回検討委員会でのご意見 (平成27年1月29日)	先進事例調査 (平成27年3月23日)	第2回検討委員会 現地調査 (平成27年4月24日)	まちづくりの取り組み (案)
跡地が備えるべき性能 など	6	一体性 あるいは 一体感 ★校舎の保存、利活用を含めた跡地利用と、跡地周辺や天神地区を含めた土地利用、施設利用との一体性、一体感を創り出すことが重要。更に周辺施設の建て替えなどとも協調して連鎖型でまちを創るなど周辺地域の更新との連携を強く意識して欲しい ・ イベントが実施できるなど都心部一体の賑わいに繋がるような場も必要ではないか。 ・ 東西の賑わいの連続性という視点から、大名を含む広い意味での天神、都心部一体の街の賑わいにつながるような場にしてはどうか。 ・ まちと学校には閉鎖的な壁があるのでこれを開放的なものとし、皆さんが気軽に利用できるように施設が良いい。 ・ 大名～天神という広い視点において、天神で起ころうとしている機能更新を、旧大名小学校跡地を活かして、東京の大手町・丸の内・有楽町地区のような、連鎖型でまちをつくっていくことも検討してはどうか。 ・ 今回、学校からの土地利用転換する「変わり方」が問われているし、跡地に隣接する施設との関係も大事になる ・ 天神・大名地区の今後のまちづくりでは、跡地が大事な種地になるような気がする。	(三菱一号館街区) ・ 広場を囲み三菱一号館やビル低層階にカフェ等が配置され賑わいを創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 旧大名小跡地だけでなく、周辺のまちづくりや機能更新との連携も考慮すべき。 (アーツ千代田3331) ・ 区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 地域住民はじめ、誰もが自由に使える憩い、交流できる空間づくり(1階コミュニティスペース、カフェ、ショップ、屋外デッキ、公園など)	※調査ポイント 周辺状況など	■校舎、広場、新たな土地利用によって一体感を持った空間を整備する ■天神・大名地区を一体として考え(街区内や天神地区などの)機能更新を促えたまちづくりを検討する
	7	全国 の モデル になる ★全国で進む統廃合における学校跡地活用のモデルになってほしい。そのためには、地域、専門家、民間の知恵を借りながら進める「検討のプロセス」、「公・民・学が連携する取り組み」、跡地整備と整備後の運営に関わる「デザインとマネジメント」のしくみづくりが重要。 ・ 場における様々な活動の中から文化が生まれてくることから、ハードをつくるだけでなく、継続的な活動があるということが更に重要になってくるのではないか。 ・ 跡地が整備された後も、その場の運営に関わるようなマネジメントの仕組みや組織も重要になる。行政・大学・民間事業者・住民・市民などを含めた「公」「民」「学」連携の取り組みも検討してはどうか。 ・ 新たな価値を生み出すには、新しい考え方やアイデアが必要であり、その推進力は人だと思ふ。クリエイティブな人たちが、やる気のある人たちが集まる場を創るべき【再掲】 ・ 既に大名で起きている人の活動からものが生まれる一連の流れを知り、まちづくりのアイデアを生みだしていけたら良い。 ・ 新たな価値を生み出すには、新しい考え方やアイデアが必要であり、その推進力は人だと思ふ。クリエイティブな人たちが、やる気のある人たちが集まる場を創るべき。【再掲】	(三菱一号館街区) ・ エリアマネジメントにより魅力的な維持管理がされている。 ・ 民間事業者の開発において魅力的で継続性ある施設運営がされると共に、ニーズを的確に捉えた運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・ 長期的に開発にコミットするデベロッパーの存在は重要。 ・ 大丸有地区のまちづくりが成功しているのは、三菱地所の尽力が大きい。計画を実施していく事業主体の必要性を感じる。 (アーツ千代田3331) ・ アートに特化しまとまりが良い。人材がポイントと感じるが、福岡で人材確保できるかが課題【再掲】 ・ 民設民営のアーツ千代田3331では、利用者ニーズを的確に捉え、小回りのきく臨機応変な施設運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である(その際地域の関与を必要とする意見もあり) ・ 有名人がオフィスとして入居したり、主催セミナーも発信力のある講師陣がいるなど、人的ネットワークがしっかり構築されている ・ 地域のコミュニティスペースの役割を果たす中で、収益をまちづくり資金として活用するスキームは一石二鳥だと感じた。 (全般) ・ 旧大名小跡地活用は官民連携になると思うが、公共で全てのイニシアチブを取るのには困難。いかに民間活力を引き出すかが重要になる。 ・ 場でどのような活動が生まれるのか、ソフトが重要であることを再認識、どのような人がどのように関わる場にするのか考えるべき。		■運営含めたマネジメントのしくみづくり ■公民学の連携によるしくみづくり ■人づくり、活動づくりのしくみの検討

2. 先進事例調査の概要

調査先：丸の内三菱1号館街区、アーツ千代田3331

調査日：平成27年3月23日（月）

調査者：14名（委員10名、事務局4名）

（参考）第2回検討委員会資料

(1) 丸の内三菱1号館街区の調査状況

◆施設に囲まれた広場の配置

広場を囲むように商業施設、三菱一号館が配置されており、広場の居心地の良さにつながっている。



◆広場の賑わい創出

広場に面した建物の一階にカフェが設置されており、憩いの空間づくりに寄与するとともに、賑わいを創出している。



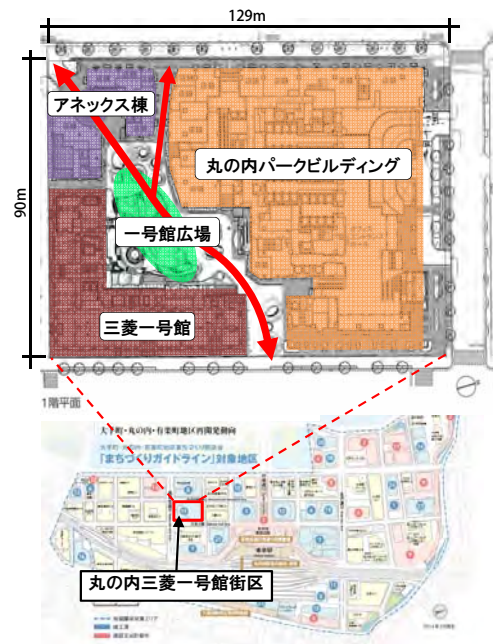
◆歴史的建築物の活用

三菱一号館は、歴史の重厚さや建物のデザインや景観の美しさにより、街区の魅力を向上するとともに、美術館として活用し、新たな賑わい創出に貢献。



◆居心地をよくするための工夫

広場には多数のベンチや噴水、季節の草花などの植栽により、憩いの空間を創出する工夫がなされている。



◆歩行者の回遊性の向上

100mを超える街区を抜けられる歩行者動線が確保されており、大丸有地区の回遊性向上に寄与している。

◆広場の利活用

通り抜けや憩いの場として活用するとともに、賑わいづくりなどのイベント（クリスマス・ショウ）を大丸有地区のまちづくりの取り組みと連携し、実施している。

(2) アーツ千代田3331の調査状況

◆空間づくり（隣接する公園と校舎が一体的空間を創出）

・校舎1階と公園をデッキで繋ぎ、一体的で開放的な空間づくり
・校舎1階にはコミュニティスペースやカフェ、ショップを配置し、地域をはじめ外部からの利用も自由に利用できる。



校舎と公園をつなぐデッキ



公園



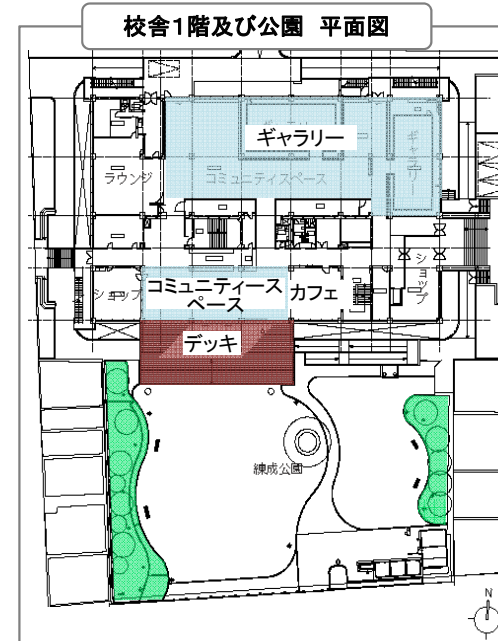
カフェ「FoodLab」(1F)



校舎に隣接する公園



ショップ(1F)



◆地域との連携

- ・屋上菜園を一般に貸出（有料）
- ・収穫祭の開催（年2回）
- ・アーツスタッフ講師による絵画教室



一坪菜園（屋上）



収穫祭の開催（屋上）



絵画教室（B1F）

◆民設民営による運営形態

- ・民設民営のメリット

一定の範囲は、運営者側で臨機応変に対応できるため活動する人と場づくりなど一体的運営がしやすい。それによって、魅力的な運営が可能となっているとのことだった。

2. 現地調査：天神・大名地区の現況

(参考) 第2回検討委員会資料

明治通り

・天神地区と大濠公園・舞鶴公園地区をつなぐ幹線道路。天神地区と外のエリアをつなぐメインストリートの一つであり、福岡を代表するビルが集積している。
・特に天神1.2丁目では、地権者等で構成される天神明治通り街づくり協議会が設立され、ビルの更新期を捉えた計画的なまちづくりに取り組んでいる。

◆天神明治通り街づくり協議会の取り組み

- ・区 域 明治通り沿道17ha
- ・構 成 地権者など36者
- ・取組み ビルの老朽化などにより地区全体が更新期を迎える中、「アジアで最も創造的なビジネス街」をめざし、円滑な機能更新、機能強化と魅力づくりに資する計画的なまちづくりに取り組んでいる。



■将来イメージ

新舞鶴小・中学校

・大名小、舞鶴小、簀子小、舞鶴中の3小学校1中学校を統合再編し、小中連携校として、旧舞鶴小校地でH26.4に開校。
・隣接街区の検察庁や少年会館の移転等に伴い、運動場等を整備する予定。



舞鶴地区

・居住・商業・業務が複合するエリア。
・H26.4の新舞鶴小中学校の開校に伴い、都心居住の受け皿として、注目されている。

大濠公園・舞鶴公園地区

・福岡を代表する約80haもの貴重な緑地空間であり、国史跡鴻臚館跡・福岡城跡にも指定された歴史を感じる場所である。また、美術館・能楽堂など芸術文化施設も有している。

◆セントラルパーク構想

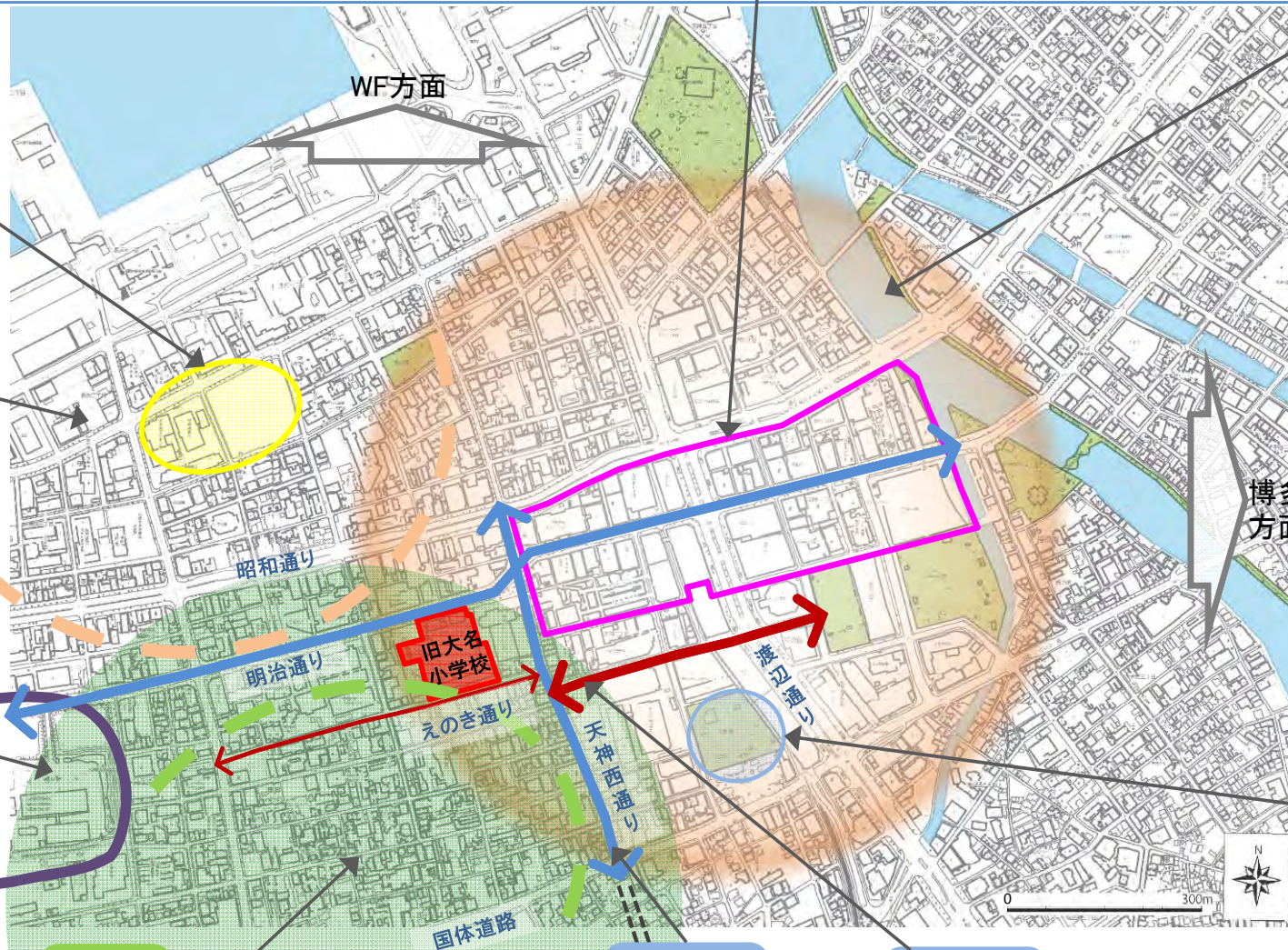
大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として歴史、芸術文化、観光の発信拠点となる公園づくりを目指す。(H26.6策定)



■全景



■多くの来訪者を集める福岡城さくらまつり



大名地区

- ・居住・商業・業務が複合するエリア
- ・ファッションや飲食をはじめとする小規模な店舗やオフィスが立地するなど若者や女性などが活躍するエリア。
- ・個性的なビルや店舗、オフィスなどが多くみられる。



■個性的なビル



■コナテを活用したショップ



■猫カフェ

天神西通り

- ・近年ファストファッションなどの商業施設が連続して立地し、賑わいを創出



■天神西通り

きらめき通り

- ・沿道の民間開発と合わせ、地上地下の魅力ある歩行者ネットワークが整備されたことにより、新たな人の流れが創出され、天神地区有数の歩行者通行量となっている。



■地上部



■地下部

天神地区

・広域交通の拠点となる天神駅や大規模な商業施設が立地し、九州屈指の商業集積エリアとして、国内外の観光客も多く訪れる。



■渡辺通り(商業施設の集積)



■賑わう天神地下街



国家戦略特区をはじめとする誘導策などにより、天神地区は、付加価値の高いビルへの建替えなどが進み、ビジネスやショッピング・憩いをはじめ、人・モノ・コトが交流する新たな空間が生まれ、これまで以上に多くの人々が活動する一方で、過度に自動車に依存しない、ひとを中心とした「歩いて出かけたくなるまち」に生まれ変わります。

警固公園

- ・天神地区の貴重なオープンスペース(約1.1ha)
- ・都市の憩いと賑わいを創出する空間として、H25.12に再整備を実施

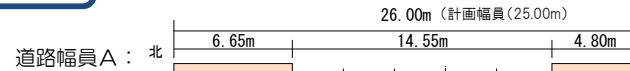


■多目的オープンスペースを備えた公園としてリニューアル

2. 現地調査：旧大名小学校跡地周辺の現況

(参考) 第2回検討委員会資料

明治通り



①天神と大濠公園・舞鶴公園地区を結ぶメインストリート明治通り・街路樹が連続

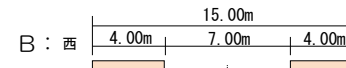


②比較的規模の大きなビル等が集積し、風格のある街並みを形成している



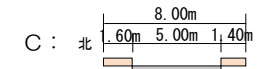
③現在は公共施設などが多く、低層部の賑わいが乏しい

天神西通り



④商業施設が連続して立地し、天神からの人の流れが多く、賑わいがある

えのき通り



⑤S4建築の旧大名小学校南校舎



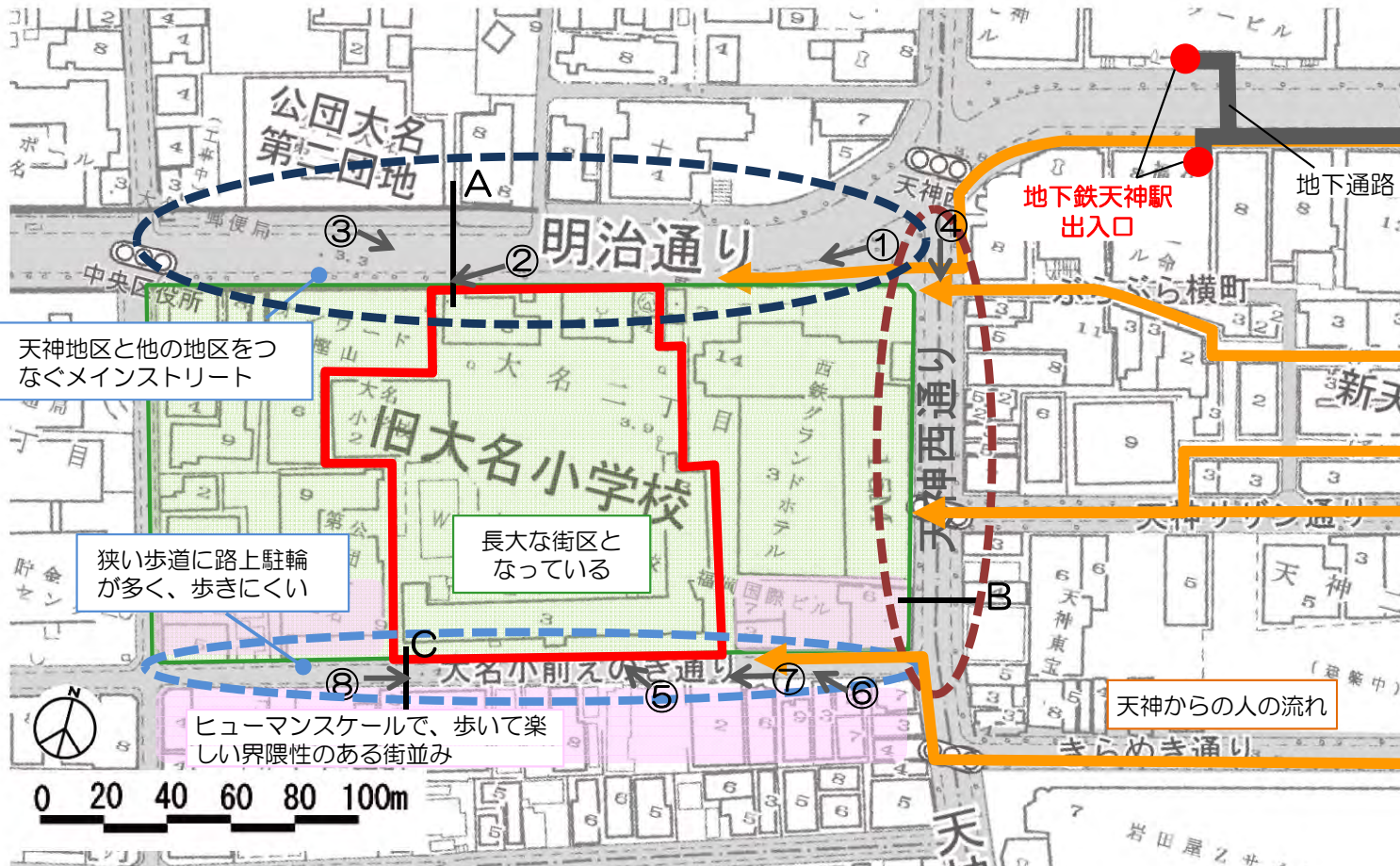
⑥低層階を店舗とした小規模なビルが多く、沿道の賑わいを創出



⑦多くの歩行者と車が共存



⑧狭い歩道、歩道への駐輪も多い



①歴史文化性

★校舎などの文化財的な価値を活用し、地域が歩んできた歴史に新たな付加価値を加えることで、これからの世代につなぐとともに、都市の文化を形成する。

②創造性

★様々な要素が混在し、混在している良さとして人間の想像力を掻き立てるようなエリアの魅力を創り出すなど、大名地区の特性や魅力なども踏まえ、人づくり・活動づくりの場を担う。

③居住性

★大名地区は住民のくらしがあるまち。くらし続けられるまちであるため、子どもから高齢者の方々が安心して利用できる地域の遊び場や交流機能を旧大名小学校跡地に備える。
★風俗営業の進出による環境悪化をさまたげる取り組み。

④防災性

★住む人や働く人、訪れる人にとって災害時に果たすべき、安全安心な防災機能を旧大名小学校跡地に備える。

⑤一体性

★跡地における土地利用の一体性をはじめ、跡地が天神地区や跡地周辺と連携することで、一体性を創出することが重要。
★更に、このタイミングを捉え、跡地周辺の更新期を迎えたビル建替え等とも連携し、連鎖的にまちを創っていく取り組みも重要。

⑥回遊性

★交通の拠点として多くの人が行きかう天神地区と大名地区を、楽しんで歩けるような地区間の一体感ある回遊性を創出するとともに、地区内の東西、南北を繋ぐ回遊性に配慮する。
★また、場そのものが、デザインも含め人を引きつけるマグネットのような魅力を備えることも必要。

⑦全国のモデルになる

★全国の学校跡地活用のモデルとなるため、地域、専門家、民間のアイデアやノウハウを引き出し進める「検討のプロセス」、「公・民・学が連携する取り組み」、跡地整備と整備後の運営に関わる「デザインとマネジメント」のしくみづくりが重要。

大名地区

- ・住宅・商業・業務が複合するエリア
- ・ファッションや飲食をはじめとする小規模な店舗やオフィスが立地するなど若者や女性などが活躍するエリア。



■個性的なビル ■コテ活用のお店



■創造的活動の場 紺屋2023 ■イ・ノ・ブ・ス イン・ヨ・ス・ス大名

大濠公園・舞鶴公園地区

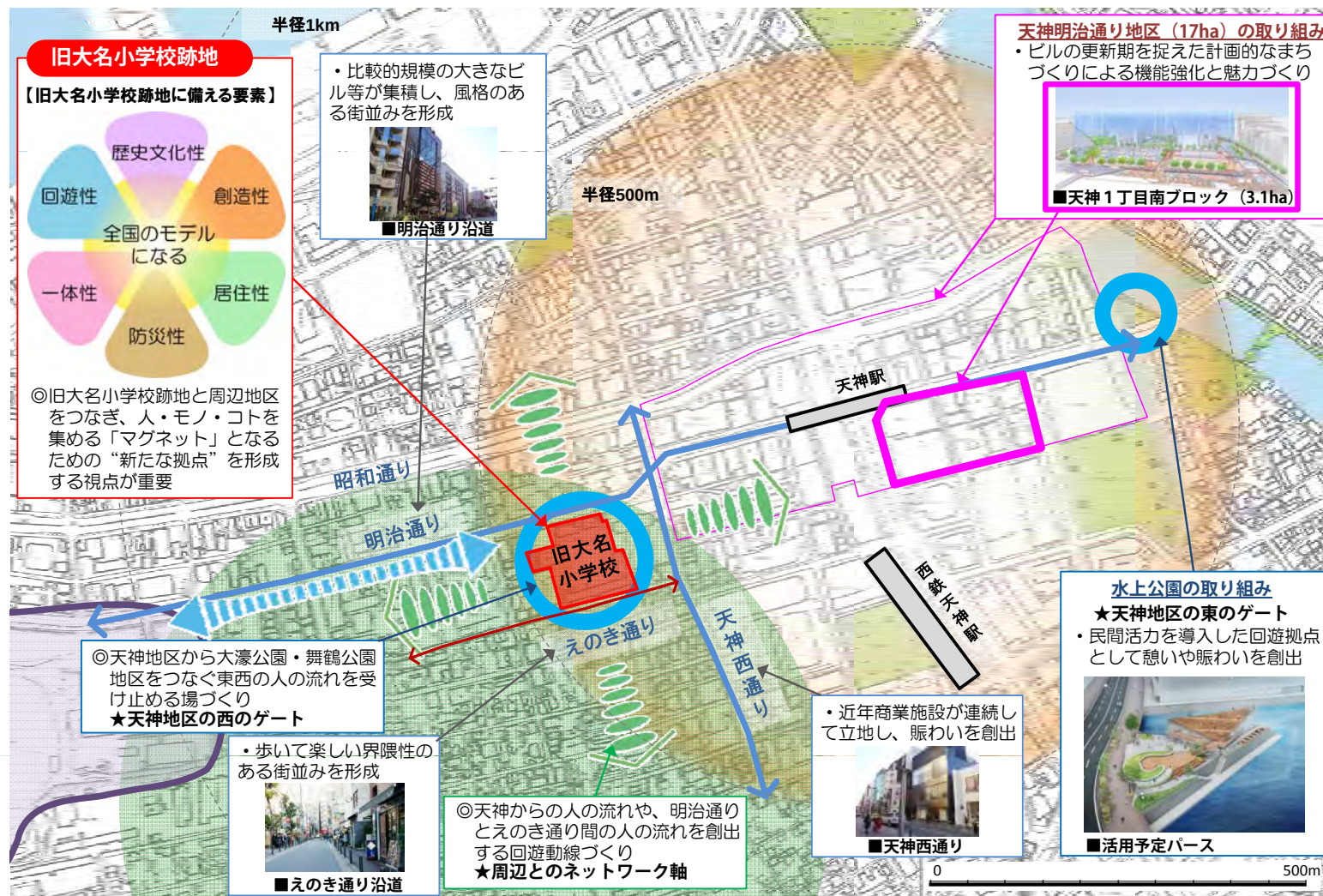
- ・福岡を代表する約80haの貴重な緑地空間であり、国史跡鴻臚館跡・福岡城跡にも指定された歴史を感じる場所である。また、美術館・能楽堂など芸術文化施設も有している。



■全景



■多くの来訪者を集める福岡城さくらまつり



天神地区

- ・広域交通の拠点となる天神駅や大規模な商業施設が立地し、九州屈指の商業集積エリアとして、国内外の観光客も多く訪れる。



■渡辺通り(商業施設の集積)



■賑わう天神地下街



国家戦略特区をはじめとする誘導策などにより、天神地区は、付加価値の高いビルへの建替えなどが進み、ビジネスやショッピング・憩いをはじめ、人・モノ・コトが交流する新たな空間が生まれ、これまで以上に多くの人々が活動する一方で、過度に自動車に依存しない、ひとを中心とした「歩いて出かけたくなるまち」に生まれ変わります。

		検討委員会や先進事例調査でのご意見 （第1回、第2回）	まちづくりの取り組みイメージ （案）	まちづくり構想への反映				
				前提	方向性や空間構成	今後		
				2	3	4	5	6
新たな拠点が備えるべき性能など	①歴史文化性	★文化財的な価値を保存して継承していくとともに、地域が歩んできた歴史をこれからの世代に伝え、地域の歴史を継承する役割がある。 ・南校舎は、昭和4年建築の鉄筋コンクリート造の建物として、福岡市では貴重なものであり、文化的な価値も高く、ぜひとも残して欲しい。 ・老朽化した建物管理は大変。南校舎については、玄関周りを残し、公民館などを増築するなど、新しいものと一体的に整備してはどうか。 ・校舎を利用した公民館も考えられるのではないかな。 ・国際観光都市としてナンバーワンのロンドンでは、まちづくりの特徴である「歴史的構造物との共存」ということを戦略的にやっている。 ・大名小出身の著名な方の足跡を残していくことも必要ではないかな。 ・都市の資産づくりという視点から、今後、文化的価値もある校舎を活かし、これをどのようにブランド化するか、どのような空間をつくり込むのが課題。 ・場における様々な活動の中から文化が生まれてくることから、ハードをつくるだけでなく、継続的な活動があるということが更に重要になってくるのではないかな。 ・建物全部は残せないとしても、一つ一つの細部に人々が生きた歴史が残るような仕掛けがあるといいのでは。 ・小学校であった歴史を踏まえると、多くの世代にわたり人を育てる場であり、ひいてはまちづくり、都市の成長に繋がる大事な場所になっていくのではないかな。 （三菱一号館街区） ・三菱一号館の復元による歴史の重厚さや建物デザインや景観の美しさが印象的。 ・歴史的建物と新しいビルとのハイブリッド感（複合感） ・銀行室を喫茶店にうまく用途変更していた。旧大名小は中央階段周りがメインなので、階段両サイドの教室と合わせて何かできないかな。 ・三菱一号館の復元によるシンボル空間の再生等の取り組みは必要、又はできるならば必要。 （アーツ千代田3331） ・民設民営の仕組みは魅力的だが、文化財的見地からは旧大名小校舎を改造も含め一括貸与となると、特徴的な意匠等が担保できないため、望ましくないのではないかな。 ・校舎の維持・管理費の負担が大きく工夫の必要がある。	■校舎を活用し、地域のシンボルの空間を整備する	○	○			○
			■まちや人の歴史に新たな付加価値を加えることで、都市の文化としていく場づくり		○			○
	②創造性	★大名地区に色々な要素が混在していて、混在している良さとして人間の想像力を掻き立てるような地域の魅力を創り出している。これまでの経緯を踏まえ人づくりや活動づくりの場になってほしいということで、創造性という言葉で代表されるような役割を強調しておく。 ・大名ならではのテーマ（歴史・若者の文化・食など）を情報発信できるような場にしてはどうか。 ・天神や大名はクリエイティブ（創造的）な人材が多く集まっている。跡地が、旧大名小などの歴史を踏まえながらも新しいものやイノベーションを生み出すための場になると、さらに創造的な人材の集積が起こるのではないかな。 ・新たな価値を生み出すには、新しい考え方やアイデアが必要であり、その推進力は人だと思ふ。クリエイティブな人たちが、やる気のある人たちが集まる場を創るべき。 ・天神や大名をクリエイティブな人たちの集積により、新しいイノベーションが生まれるエリアにしていくとともに、そのエリアの効果的な場所である旧大名小跡地を、新しいもの、イノベーションを生み出すためのアンカー（礎）としてはどうか。 ・海外都市でも、ターミナル駅と大きな公園との間にある街は個性的かつ、活性化している例があり、大名地区もその可能性を有しているのではないかな。 ・大名の創造性は非常に魅力的であり、創造性は子どもや若者の教育とも深く関わる。将来の福岡を担い創造的に未来を創れる人を育てる場としての役割を引き続き担ってはどうか。 （三菱一号館街区） ・広場やカフェ・美術館など一体的に活用することで、都市型MICEのユニークベニューとしての活用が可能ではないかな。世界の方々に福岡や大名の近代の歴史を知ってもらえる機会にもなるのでは。 （アーツ千代田3331） ・創造的な場づくりとして、使い方や空間整備の面で参考になると感じた。 ・区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・実験的なことができる場所を求めているアーティストや企業にとっては有機的な関係を育てやすい運営形態と思う。 ・アートに特化しているのでまとまりが良い。人がポイントと感じるが、福岡で人材確保できるかが課題。	■新たな価値を生む人、モノ、コトが交流する場づくり		○			○
			■クリエイティブ（創造的）な活動を促す空間整備			○		
			■イノベーションを生み出すアンカーとなる人や活動を集積させる空間整備		○	○		
	③居住性	★大名地区は住民のくらしがあるまちであり、居住性が確保されなければならない。住み続けるまちであるため、子どもや高齢者の方々が楽しめる地域の遊び場やレクリエーション機能も兼ね備えていく必要がある。 ・大名地区は土日は多くの歩行者で賑わう一方、歩道上に並ぶ放置駐輪問題は深刻である。 ・子どもから高齢者まで安全安心に暮らせるまちとしての要素を備える必要がある。（広場など） ・都心部で利便性が良い場所にあるため公民館利用者は多い、活動する場があると利用する人、ニーズは多いのではないかな。 ・跡地の今後の位置づけ次第では風営法の規制が無くなり、生活環境の悪化を懸念している。 ・大名1,2丁目には十分な規模の広場的空間が不足している。 ・風営法の規制がかかるような施設を立地してほしい。 ・不特定多数が利用できる場となった時、広場が校舎の陰になるなど治安上不安。以前の警固公園のようにならないよう利用者の管理がしっかり出来る場となるように考えてほしい。 （アーツ千代田3331） ・大きなくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができたり、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。	■暮らしを支える機能として、多目的な空間の整備（配置・経路等の検討を含む）	○	○			○
			■暮らしを支える機能として、公民館の移転改築（配置・経路等の検討を含む）	○				○
			2-④生活環境を悪化させない取り組みの検討		○			○
	④防災性	★突発的な災害時に果たすべき防災機能が跡地には必要。 ・福岡県西方沖地震の経験をふまえ、災害時の機能として避難場所には必要。 ・避難場所や施設等は防災拠点として役割を果たせるものとし、規模や配置、経路などを検討してほしい。 （三菱一号館街区） ・空間が細かく区画されすぎていた。	■暮らしを支える機能として、現在の運動場と同等面積の広場の整備（避難場所、交流やレクリエーションの場所などで利用、配置・経路等の検討を含む）	○	○			○

1.（参考資料②）これまでのご意見とまちづくりの取り組み（案）のまちづくり構想への反映

（参考）第3回検討委員会資料

		検討委員会や先進事例調査でのご意見 (第1回, 第2回)	まちづくりの取り組みイメージ (案)	まちづくり構想への反映					
				前提	方向性や空間構成		今後		
				2	3	4	5	6	
⑤一体性		★校舎の保存、利活用を含めた跡地利用と、跡地周辺や天神地区を含めた土地利用、施設利用との一体性、一体感を創り出すことが重要。更に周辺施設の建て替えなどとも協働して連鎖型でまちを創るなど周辺地域の更新との連携を強く意識して欲しい	■校舎、広場、新たな土地利用によって一体性を持った空間を整備する		○		○		
		・イベントが実施できる等都心部一体の賑わいに繋がるような場も必要ではないか。 ・東西の賑わいの連続性という視点から、大名を含む広い意味での天神、都心部一体の街の賑わいにつながるような場にしてはどうか。 ・まちと学校には閉鎖的な壁があるのでこれを開放的なものとし、皆さんが気軽に利用できるような施設が良い。 ・大名～天神という広い視点において、天神で起ころうとしている機能更新を、旧大名小学校跡地を活かして、東京の大手町・丸の内・有楽町地区のような、連鎖型でまちをつくっていくことも検討してはどうか。 ・今回、学校からの土地利用転換する「変わり方」が問われているし、跡地に隣接する施設との関係も大事になる ・天神・大名地区の今後のまちづくりでは、跡地が大事な種地になるような気がする。 ・まちは均質化してはおもしろくない。大名にしかない創造的な魅力と、明治通り側の颯爽としたビジネス空間などの「変化に富んだまち」は人を引きつける魅力となっており、これが体現できる拠点としてはどうか。 (三菱一号館街区) ・広場を囲み三菱一号館やビル低層階にカフェ等が配置され賑わいを創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・旧大名小跡地だけでなく、周辺のまちづくりや機能更新との連携も考慮すべき。 (アーツ千代田3331) ・区民に開放されたアーツ千代田3331のコミュニティスペースと再整備された公園をデッキで繋ぎ一体感を創出する等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・地域住民はじめ、誰もが自由に使える憩い、交流できる空間づくり(1階コミュニティスペース、カフェ、ショップ、屋外デッキ、公園など)	■天神・大名地区を一体として考え(街区内や天神地区などの)機能更新を捉えたまちづくりを検討する		○		○		
			■跡地と周辺地区をつなぎ、人・モノ・コトを集める”マグネット”となる		○				
⑥回遊性		★大名・天神地区と一体感をもったまちとして捉え、歩行者が楽しんで歩けるような一体感のある地区間の回遊性を創り出すことが重要であり、地区内の東西、南北を繋ぐ回遊性に配慮した跡地利用とすべき。また、地区間の回遊性については、デザインも含め人を引きつけるマグネットのような魅力が必要である。	■東西の人の流れを受け止める回遊拠点づくり(天神地区の西のゲートとして、大濠公園・舞鶴公園地区とつなぐ)		○				
		・天神から舞鶴・大濠公園地区をつなぐ東西の人の流れを受け止める場づくりや、明治通りとえのき通り間の人の流れを創出する、南北に跡地を通り抜ける動線づくりも必要ではないか。 ・今は東西方向に校舎が建ち、南北を壁のように塞いでいるが、南北方向にどのように抜けていくのか検討する必要がある。 ・天神～大名のつながりは非常に重要であり、天神地区に集積する交通機関からわき出てくる人をどうやって受け止め、回遊させるかが重要。 ・回遊性に関して、人を惹きつけるようなマグネットのような魅力を跡地が持つべきであり、そのためにはデザインという要素も重要になる。 ・天神、博多との回遊性を考えた時、大名地区にはブランドがあり、まちを散策するなど、精神的、時間的なゆとりをもって安心して歩けることが非常に重要となる。 (三菱一号館街区) ・街区内を通り抜ける歩行者動線の確保は回遊性の向上に寄与している。 ・一方、広場の存在を知らなければ、通り過ぎてしまう可能性もあると感じた。 広場のつくり込みへの評価 ・建物に囲われた広場の配置(囲われ感)により、居心地の良い空間が印象的と感じた。 ・ゆったり感はないが、配置の工夫などにより圧迫感を感じないデザインがされている。 ・広場に面した建物1階におけるカフェや店舗などによる憩いや賑わいの創出。 ・ベンチが多く休憩しやすいことや、噴水、季節の草花などを配するなど、憩いと潤いの空間を創出。 ・鳥の声、噴水や流れる水の音など五感に訴えるガーデンは素晴らしい。 (アーツ千代田3331) ・大きくすのきを囲んで地域のこどもたちや多世代の交流ができたり、カフェや居酒屋で様々な人が交流する場があることは大切。	■人を引きつける魅力的な施設・空間の整備		○				
			■人の流れを創る回遊動線の確保(快適な歩行者動線、南北通り抜け動線など)				○		
			■憩いや賑わいの創出		○	○			
⑦全国 のモデル になる		★全国で進む統廃合における学校跡地活用のモデルになってほしい。そのためには、地域、専門家、民間の知恵を借りながら進める「検討のプロセス」、「公・民・学が連携する取り組み」、跡地整備と整備後の運営に関わる「デザインとマネジメント」のしくみづくりが重要。	■運営含めたマネジメントのしくみづくり					○	
		・跡地が整備された後も、その場の運営に関わるようなマネジメントの仕組みや組織も重要になる。行政・大学・民間事業者・住民・市民などを含めた「公」「民」「学」連携の取り組みも検討してはどうか。 ・既に大名で起きている人の活動からものが生まれる一連の流れを知り、まちづくりのアイデアを生みだしていけたら良い。 ・跡地利用のあり方は、周辺地域も含めた10～20年後の地域の姿を共有し、まちづくりの観点から長期的な展望に立ち考えていくべき。 ・空きの状態が長く続くことはないことにならない、スムーズに跡地を転換していくマネジメントが必要。 (三菱一号館街区) ・エリアマネジメントにより魅力的な維持管理がされている。 ・民間事業者の開発において魅力的で継続性ある施設運営がされると共に、ニーズを的確に捉えた運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である。 ・長期的に開発にコミットするデベロッパーの存在は重要。 ・大丸有地区のまちづくりが成功しているのは、三菱地所の尽力が大きい。計画を実施していく事業主体の必要性を感じる。 (アーツ千代田3331) ・アートに特化しまとまりが良い。人材がポイントと感じるが、福岡で人材確保できるかが課題【再掲】 ・民設民営のアーツ千代田3331では、利用者ニーズを的確に捉え、小回りのきく臨機応変な施設運営がなされている等の取り組みは必要、又はできるならば必要である(その際地域の関与を必要とする意見もあり) ・有名人がオフィスとして入居したり、主催セミナーも発信力のある講師陣がいるなど、人的ネットワークがしっかり構築されている ・地域のコミュニティスペースの役割を果たす中で、収益をまちづくり資金として活用するスキームは一石二鳥だと感じた。 (全般) ・旧大名小跡地活用は官民連携になると思うが、公共で全てのイニシアチブを取るのとは困難。いかに民間活力を引き出すかが重要になる。 ・場でどのような活動が生まれるのか、ソフトが重要であることを再認識、どのような人がどのように関わる場にするのか考えるべき。	■公民学の連携によるしくみづくり		○		○		
			■円滑な機能更新に向けた取り組み						○

1. 旧大名小学校跡地まちづくり構想について

●跡地活用に際しての基本的な考え方を整理するまちづくり構想の位置づけについて記載します。

2. 旧大名小学校跡地まちづくり構想の前提

(1) 上位計画

●各上位計画から旧大名小学校跡地に関連する項目について記載します。

① 第9次福岡市基本計画(H24.12改定)

② 福岡市都市計画マスタープラン都心部編(H26.5改定)

③ 「グローバル創業都市・福岡」ビジョン(H27.3)

都市像Ⅲ グローバルビジネスを呼び込む高次都市の実現に向けて
戦略Ⅶ 世界で活躍する企業や人材を引きつけるビジネス環境をつくる

(2) 地域と定めた跡地整備に関する事項

●地域と定めた跡地整備に関する事項について記載します。

(3) 旧大名小学校校舎の活用

●校舎に関する文化財的評価のための調査報告（デザイン・構法等がすぐれている など）
について記載します。

3. まちづくりの方向性

(1) 地区の個性・魅力

●旧大名小学校跡地をとりまく地区について特性ごとに分類し、整理します。

①大名地区

（界隈性のある街並み・若者を育む場所・創造的な環境や人等の集積・暮らしの見えるまち など）

②天神地区

（商業・業務施設の集積・交通拠点の集積・地下歩行者ネットワークや賑わい拠点の充実 など）

③大濠公園・舞鶴公園地区

（歴史・芸術文化・観光の発信拠点）

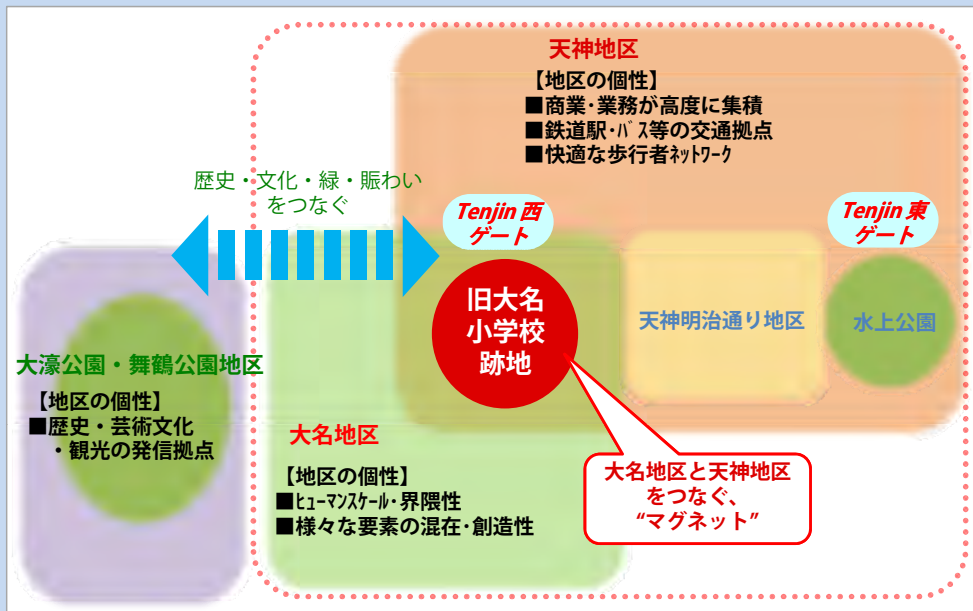
(2) まちづくり上の課題

●まちづくり上の課題について、整理して記載します。

- ・大名地区は、都心にありながら住民の暮らしがあるまちであり、暮らし続けられるまちづくりへの配慮が必要
- ・大名地区は、長大街区や敷地が小規模であり、東西・南北の歩行者動線や広場的な空間が不足
- ・大名地区は、土日は多くの歩行者で賑わう中、歩道上に並ぶ放置駐輪が課題
- ・都市の資産づくりという視点から、ブランド化に向けた空間づくりについての課題
- ・長期的な展望に立ち、更新期を迎える天神地区との連携、連続性を考慮すべき

(3) 天神地区・大名地区のまちづくりの方向性

- ◎まちなみや人の流れを繋ぎ、都心部の活力等を向上
- ◎天神地区の西のゲートとして、大濠公園・舞鶴公園地区の歴史・文化や緑・賑わいをつなぐ
- ◎旧大名小学校跡地は、天神地区と連携し、大名地区の個性を引き出し、まちに厚みを加える機能・空間を形成し、両地区をつなぐ“マグネット”となる

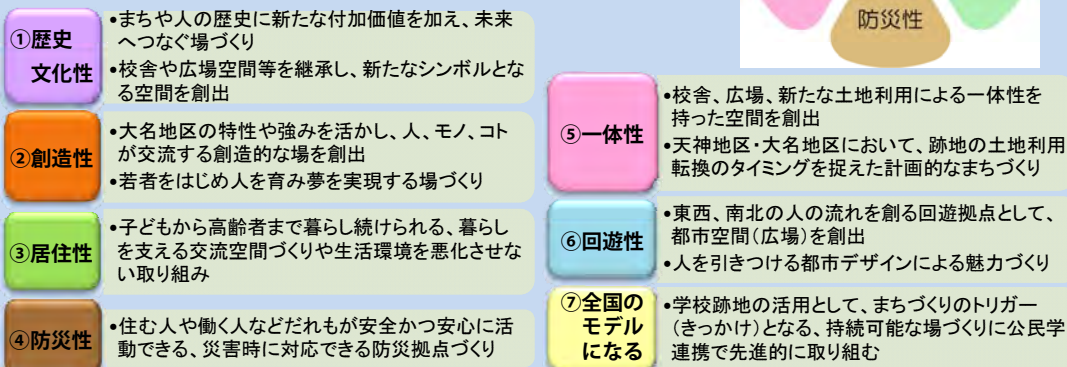


(4) 旧大名小学校跡地のまちづくりの方向性

【旧大名小学校跡地に備える要素】

- ◎旧大名小学校跡地と周辺地区をつなぎ、人・モノ・コトを集める「マグネット」となるための“新たな拠点”を形成する視点が重要

- ◎旧大名小学校跡地には、学校施設が担ってきた役割や歴史の継承をはじめ、地区の特性を活かした個性あるまちづくり、くらしの見えるまちづくり、都市活力を更に高めるまちづくりなどに貢献する7つの要素を備える



4. まちづくりのテーマと跡地に備えるべき機能のあり方

(1) まちづくりのテーマ

人を育てる場所、そして都市を育てる場所へ
生まれ変わります

- ◎子どもから大人までが集う「人を育てる場所」を創ります
- ◎都市を担う人・モノ・コトの交流を促す「都市を育てる場所」を創ります

(2) 跡地に備えるべき機能のあり方

①拠点性を高める機能

- ・都市の成長を牽引する新たなビジネス創出の拠点
- ・安全安心な防災・暮らしの拠点 ほか

②天神地区・大名地区の特性を引き出し強化する機能

- ・クリエイティブな人や企業・若者や女性が活躍できる拠点
- ・次世代を担う人を育てる拠点 ほか

③シンボルとなり交流の中心となる空間

- ・回遊拠点として、市民が憩い、やすらぎ、楽しみを体感できる都市空間の創出
- ・歴史を今・未来へつなぐ空間『(仮称)ときの広場』の整備 ほか

※『(仮称)ときの広場』のイメージ

人・モノ・コトの交流を促す場として、「(仮称)ときの広場」を備えることで、跡地に導入される様々な都市機能が広場を介して相互に連携し、新たな価値を創出する場づくりをめざします



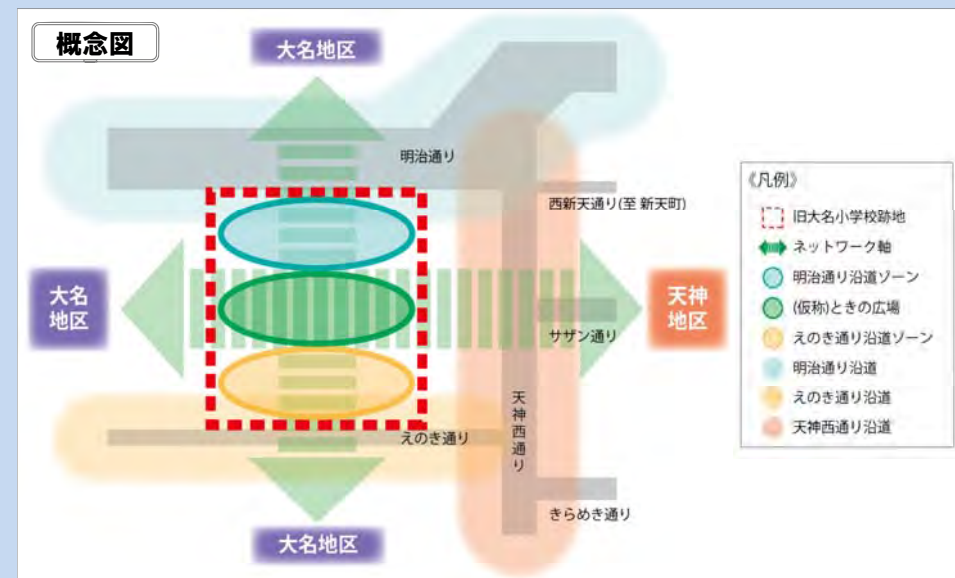
■アオーレ長岡（出典：長岡市HP）
【「ナカドマ」広場面積 約2,250㎡】



■富山グランドプラザ（出典：富山市HP）
【広場面積 約1,400㎡】

5. 空間構成のあり方

- (仮称)ときの広場……跡地の中心に配置、憩いと賑わいの拠点
- ネットワーク軸……西通りの賑わいを引き込み、大名地区と天神地区をつなぐ
- 明治通り沿道ゾーン……天神地区と大濠公園・舞鶴公園地区をつなぐメインストリートとして、緑の連続性などに配慮した風格のある街並みを形成
- えのき通り沿道ゾーン……校舎を活用し、歩いて楽しい賑わいある街並みを形成



6. 今後の検討課題

- まちづくり構想の策定後、跡地利用を具体化していくにあたっての検討課題について、記載します。

①都市文化の形成に向けて

- ・維持管理や地域の歴史を継承する施設やしかけとあわせた、校舎の活用範囲
- ・場における様々な活動の中から文化が生まれてくることから、継続的な活動が続くしくみ

②安全・安心・快適に暮らせるまち

- ・広場や施設等は、防災時の拠点として役割が果たせる配置等
- ・風営法の規制が無くなり生活環境の悪化が懸念されることに対する取り組み等
- ・繁華街に位置する広場の子どもから高齢者までが安心してすごせる管理上のしくみ

③創造的な場づくり

- ・創造的な人や企業を更に集積させるしかけやしくみ
- ・継続的なまちづくり活動の拠点づくり

④持続的なまちづくり

- ・「公」「民」「学」連携のマネジメントのしくみ

⑤円滑な機能更新に向けて

- ・更新期を迎える天神・大名地区における貴重な空間であり、連鎖型まちづくりの視点